



2015年度 貸借対照表

2016年03月31日現在

科 目	合計
I 資産の部	
1 流動資産	1,316,819
(1) 現金	651,819
現金	0
振替預金	536,628
総合預金	115,191
(2) 未収金	665,000
2 固定資産	2,242,912
(1) 有形固定資産	2,242,912
工具器具備品	1,513,709
建物付属設備	729,203
資産合計	3,559,731
II 負債の部	
1 流動負債	147,880
未払金	77,880
未払法人税等	70,000
2 固定負債	0
負債合計	147,880
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	1,186,030
当期正味財産増減額	2,225,821
正味財産合計	3,411,851
負債及び正味財産合計	3,559,731

2015年度 活動計算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

科目	ちくりん舎 会運営	放射能 測定事業	合計
I 経常収益			
1 受取会費	350,000		350,000
2 受取寄附金	1,819,025		1,819,025
3 事業収益(放射能測定料)		6,010,000	6,010,000
4 その他収益(シホ・総会等)	45,266		45,266
経常収益計	2,214,291	6,010,000	8,224,291
II 経常費用			
1 事業費	318,190	5,426,469	5,744,659
(1) 人件費		1,476,500	1,476,500
(2) その他経費	318,190	3,949,969	4,268,159
2 管理費	160,333	423,478	583,811
(1) 人件費	0	0	0
(2) その他経費	160,333	423,478	583,811
経常費用計	478,523	5,849,947	6,328,470
当期経常増減額	1,735,768	160,053	1,895,821
III 経常外収益	0	0	0
IV 経常外費用	0	0	0
V 特別利益		400,000	400,000
税引前当期正味財産増減額	1,735,768	560,053	2,295,821
法人税、住民税及び事業税	0	70,000	70,000
税引後当期正味財産増減額	1,735,768	490,053	2,225,821
前期正味財産額	2,004,679	-818,649	1,186,030
次期繰越正味財産額	3,740,446	-328,595	3,411,851

フランスの技術者ミレーンさんらが来日

今年2月末に、フランスの反原発市民団体
アクトロ
 ACRO の技術者であるミレーンさんとオリビエ
 さんが、3年振りにちくりん舎を訪問されまし
 た（ちくりん舎のゲルマ測定器はアクトロ ACRO から寄
 付されたものです）。

ちくりん舎の3年間の活動成果を見ていた
 だ後、近くの自然食レストランで交流会を開
 きました。交流会では、今回ミレーンさんが行
 かれた福島県沿岸の調査の様子について写真
 を交えてお話していただきました。

ミレーンさんから届いたメッセージをご紹介
 します。



ちくりん舎の測定室を見学する
 ミレーンさん（手前）とオリビエさん（奥）

ミレーンさんからのメッセージ

私たち ACRO は、今年 2 月、福島県沿岸で実施された大規模な調査において、グリーン・ピースから技術支援の依頼を受けました。今回の来日は私にとって、ちくりん舎を再訪問する好機にもなりました。ちくりん舎にゲルマニウム半導体測定器を設置して立ち上げたとき以来、3 年振りにちくりん舎の皆さんとお会いすることになりました。

グリーン・ピースの放射能調査は、原発周辺において汚染された海底の状況を、正確に地図化するものでした。この調査には、いくつかの河川水系と阿武隈川河口の測定も含まれていました。調査は日本の調査船で行われ、グリーン・ピースの母船である「虹の戦士号」が伴走しました。海底の測定には、ガンマー線スペクトロメータとサンプル採取器を備えた小さな潜水艦が使われました。土壌サンプルは、ちくりん舎へ送って測定してもらいました。

この調査は、海洋汚染の状況と海洋生態系への影響を評価する上で極めて重要なものです。福島第一原発の事故は、かつてない最大級の規模で人工核種を海洋へ放出する結果となりました。この海洋汚染には、原発から直接海へ放出されているものだけではなく、河川系を通じて海へ流れ込むものが含まれます。調査結果は、この夏に公開される予定です。

福島沖での調査を終えて東京へ戻り、ACRO の同僚であるオリビエと合流してから二番目の、そして最高のミッションに向かいました。つまり、ちくりん舎への訪問です！

初めてちくりん舎を訪問しゲルマニウム半導体検出器の設置を指導してから、すでに 3 年が経ちました。2 月 27 日の日曜日、ちくりん舎のメンバーが青梅駅へ迎えに来てくれました。ちくりん舎ラボに着いて、私たちは 3 年前との大きな活動の変化に驚きました。新たな高純度ゲルマニウム測定器を設置するために測定室が拡張され、測定準備室も立派に整えられていました。

わずか 3 年間で、ちくりん舎のラボは今や私たちフランスの ACRO と同じくらい整備されています（ちなみに今年は ACRO の 30 周年です！）

私たちは、ちくりん舎の活動報告にも驚かされました。大惨事から 5 年、高い能力を備えた高精度測定の実験室が存在することは、とても重要です。市民が信頼できる評価の手段を持ち、市民自らが調査できるようになるからです。

ラボの見学の後、フレンドリーな夕食会でちくりん舎のすべてのメンバーにお会いできたことも大きな驚きでした。この交流の時間は、内容的にとっても重要であっただけでなく、



ちくりん舎近くの自然食店「星宿」にて